

PAT-NO: JP410181750A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10181750 A

TITLE: CASE WITH LENS FOR BANKBOOK OR THE
LIKE

----- KWIC -----

Abstract Text - FPAR (1):

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily carry a case for bankbook without forgetting it to windows of various financial institutions or administrative organs and use a lens as a magnifying glass which can be freely used when necessary, by adding the plastic lens at a part of the case for a bankbook or the like or forming a pocket to hold the lens.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-181750

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月7日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 27/04

識別記号

F I

B 6 5 D 27/04

Z

審査請求 未請求 請求項の数 7 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-355899

(22) 出願日 平成8年(1996)12月25日

(71) 出願人 597007592

株式会社東邦銀行

福島県福島市大町3番25号

(72) 発明者 菊地 健一

福島県福島市大町3番25号 株式会社東邦

銀行内

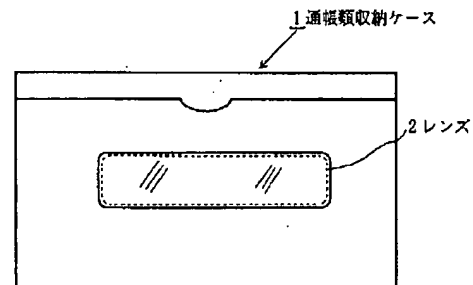
(74) 代理人 弁理士 川浪 薫

(54) 【発明の名称】 レンズ付き通帳類収納ケース

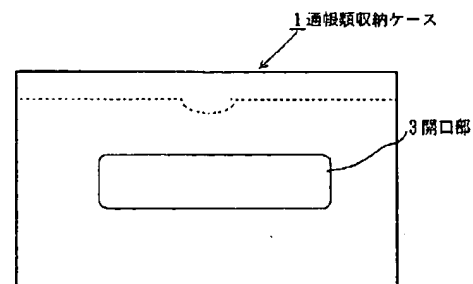
(57) 【要約】

【課題】 金融機関や行政機関の窓口で容易に持参し得て、必要な時に自由に利用可能な拡大装置として機能するレンズを付加した通帳類の収納ケースを提供することを課題とする。

【解決手段】 通帳類収納ケースの適宜位置にプラスチック製レンズを付加した通帳類収納ケースである。



(表)



(裏)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 各種通帳、手帳等の収納ケースであって、該収納ケースの一部にプラスチック製レンズを付加したことを特徴とするレンズ付き通帳類収納ケース。

【請求項2】 前記レンズを挿入保持するためのポケットが、前記収納ケースのいずれかの面に形成されることを特徴とする、請求項1に記載のレンズ付き通帳類収納ケース。

【請求項3】 前記レンズを前記収納ケースの片面の適宜部位に取り付け、該ケースの反対側の前記レンズに対応する部位を開口部とし、該開口部に重畳するレンズにより拡大鏡として使用し得ることを特徴とする、請求項1または2のいずれかに記載のレンズ付き通帳類収納ケース。

【請求項4】 前記収納ケースに通帳類を収納した際に、前記レンズおよび開口部が、通帳類の主要文字、数字、ロゴ等の記載位置に合致することを特徴とする、請求項3に記載のレンズ付き通帳類収納ケース。

【請求項5】 前記レンズと同様の大きさの付加レンズを用意しておき、使用者の視度に合わせて重畳または交換することにより、視度調整が可能であることを特徴とする、請求項1～4のいずれかに記載のレンズ付き通帳類収納ケース。

【請求項6】 前記レンズを取り付けた基台の一端を前記収納ケースに対して開閉可能に一体化し、開放した状態で該レンズを使用することを特徴とする、請求項1に記載のレンズ付き通帳類収納ケース。

【請求項7】 前記レンズを取り付けた基台を前記収納ケースに閉じた状態を保持するための手段を有することを特徴とする、請求項6に記載のレンズ付き通帳類収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、各種金融機関における預貯金の通帳や年金手帳等（以下、通帳類という）を収納するための収納ケースに関する。

【0002】

【従来の技術】通帳類は現代の社会生活を営む殆どの人々が利用するものである。大多数の人々が預貯金を有している。また国民皆保健制度が確立していることから、老齢年金や福祉年金が支給され、全員が年金受給対象者となることになっている。高齢化社会に突入して、年金手帳や支給年金の受取のための通帳類はこれら高齢者にとって必需品である。

【0003】かかる通帳類では、その殆どがコンピュータ端末による処理が行われており、小さな文字で記載されている金額、日付、項目等を判読しなければならない。かかる文字や数字を自身で判読できるか否かは高齢者、及び視力の低下した者にとっては大きな問題である。

【0004】各自で使用している眼鏡や拡大鏡等を持参すればよいが、日常生活では格別不自由を感じないことも多く、ややもすると忘れがちである。また、軽度の視覚障害の場合には、眼鏡等を用意していない場合もある。各種金融機関、郵便局の窓口や、市区町村役場、その他行政機関等の事務窓口には、近年老人用の眼鏡を備えていて、その都度利用可能になっているところも増えてきている。

【0005】しかしながら、全ての事務窓口で利用可能というまでは普及しておらず、また利用者の事情（視力）に全て合致するものが用意されているわけではない。用意された眼鏡が視度に合わず強弱いずれかに偏っていたり、眼鏡の数に限りがあるため他者が利用している場合には、使用順番を待たなければならない等の不便さの生じる例は枚挙に暇がない。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上述のような従来の状況を改善し、各種金融機関や行政機関の窓口で忘れることなく容易に持参し得て、必要な時に自由に利用可能な拡大鏡として機能するレンズを付加した通帳類の収納ケースを提供することを課題とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の課題は、通帳類収納ケース1の適宜位置にプラスチック製レンズ2を付加した通帳類収納ケースによって解決される。図1

（表）に示すように、プラスチック製レンズ2を収納ケース1の表面の例えば略中央部に取り付けることができる。

【0008】なお、図（裏）に示すように、収納ケース1の裏側のレンズ2と対応する面は開口部3とすることができる。また、この開口部3は透明シートとすることもできる。さらに、この開口部3の透明シートをポケット状に形成し、他のプラスチック製レンズを取り付け、或いは収納するようにすることもできる。この場合、表面に取り付けたレンズと同様の大きさのレンズを透明シートのポケット内に収納可能にしておくことにより、使用者の視度に合わせてこれを重畳することにより、視度調整が可能となる。

【0009】図1に示す、プラスチック製レンズ2および開口部3の位置は、適宜選定することができるが、通帳類に記載されている名称、金融機関名または発行者等の名称、ロゴマーク、等の特にアピールしたい部分と合致せしめることができる。かかる構成を採用することにより、他部分は不透明であっても利用者は通帳類の種類、利用先の銀行等を容易に確認することが可能となり、例えば、不織布、布地、和紙等の不透明な素材を用いたユニークな通帳類の収納ケースを形成することができる。

【0010】また、収納ケース1の表面または裏面に、該ケース1と同様のサイズのレンズを挿入保持するため

のポケットを形成し、必要な時に該ポケットからレンズを取り出して使用するよう構成することができる。この場合ポケットを透明シートにすることによって、レンズの取り出し作業を省くことができる。なお、レンズ以外の収納ケース全体を透明素材により形成することも可能であり、この場合は裏面の開口部3も不要となる。

【0011】更に、前記プラスチック製レンズ2を取り付けた基台7Bの一端を前記収納ケース1に対して開閉可能に一体化し、開放した状態で該レンズを使用するよう構成することができる。この場合、前記レンズ2を取り付けた基台7Bを前記収納ケース1に閉じた状態を保持するための手段を設けると都合がよい。

【0012】

【発明の実施の形態】次に、本発明を具体化した好適な実施例を添付図を参照しつつ説明する。図1は、前述のように本発明にかかる通帳類収納ケースの基本構成を示す表面図および裏面図である。

【0013】図(表)は、通帳類収納ケース1のほぼ中央位置に開口を形成し、それに重ねてプラスチック製レンズ2を取り付けたものを示すものである。この場合のプラスチック製レンズ2は、ポリカーボネート、アクリル等の透明樹脂シートに微細な同心円状凹凸を付加することによるフレネル型レンズとすることができる。なお、ここではレンズを軽量、加工が容易等を考慮してプラスチック製としたが、強化ガラス等の透明素材によるものであってもよい。

【0014】また、シート状に成形する際に、部分的に密度を変化せしめ、凸レンズと同様の屈折率を達成したものであってもよい。前者であれば、かなり大きなものも容易に作成可能であるため、レンズ部分を大きくすることができ、いずれにしても、携帯上不利にならず、擦り傷などができにくく、かつ破損しにくいものであることが望ましく、若干柔軟性があり、薄型であることが望ましい。

【0015】この場合、通帳類収納ケース1本体とプラスチック製レンズ2の取り付けは、双方の素材に応じて高周波溶着、適宜接着剤による接着等の取り付け手段を採用することができる。さらに、上述のレンズ取り付け部分に透明のプラスチックシートによるポケットを形成しておき、このポケットに予め作成しておいたプラスチック製レンズ片を挿入するよう構成することもできる。

【0016】ところで、使用者の視度(視力)は千差万別であり、さらに経時的に変化するものである。したがって、この場合のレンズはなんらかの手段により視度の調節が可能であることが望ましい。

【0017】このようなレンズを視度に合わせて調節するための手段としては、各種の態様を選択し得る。上述の透明ポケットを使用するものにあつては、別途作成された屈折率の異なるレンズを差し替えることによって容

易に対応することができる。また、このような透明ポケットは、レンズ保護機能も発揮するため、他物との接触によるレンズ自体への擦り傷の発生や破損防止にも有効となる。

【0018】また、収納ケース1表面には図1(表)のように標準的なプラスチック製レンズ2を取り付けておき、図1(裏)のように収納ケース1裏面に形成される開口部3に、図2に示すように、透明ポケット4を設けておき、レンズの屈折率を上げるために、付加レンズ5を矢印のように挿入するよう構成することができる。

【0019】かかる構成によれば、表面に付加された標準的な屈折率のプラスチック製レンズ2により目的が達成できる場合はそのまま利用し、倍率を変えたいとする利用者に対しては、付加的に用意した適宜屈折率のレンズ5を選択して該透明ポケット4に挿入することにより目的を達成することができる。

【0020】図3は、他の実施例を示すものであり、通帳類収納ケース1本体には標準的なレンズ2を付加し、あるいは開口部のみを形成しておく。これに対して、図下側に示すようなプラスチック製付加レンズ6を形成しておき、必要に応じて本体に貼付して使用するものである。

【0021】このプラスチック製付加レンズ6の周囲には接着剤6Bが塗布されており、使用前は剥離紙で保護しておく。この場合のプラスチック製付加レンズ6は屈折率の異なる複数種を用意しておき、利用者の視度状態に合わせて選択し収納ケース1本体に貼付して使用することができる。

【0022】このような構成によれば、利用者の視度に合わせ、あるいはその後の視力の変化に合わせて屈折率を変化せしめることができる。なお、ここで対象とするプラスチック製レンズでは重畳使用することにより容易に屈折率を上げることができるため、随時屈折率を変更することが可能である。

【0023】図4はさらに他の実施例を示すもので、通帳類収納ケース1に対して付加的なプラスチック製レンズ7又は該レンズを取り付けたカバー(レンズ基台7B)の一片8を接着したものである。使用に際しては、両頭矢印10のようにケース本体1からレンズ又は該レンズを取り付けたカバーを開いて使用するものである。

【0024】この実施例では、レンズ基台7Bを任意の形状とすること、および適宜文字、模様等を付加し、装飾性を向上せしめることができる。なお、レンズ基台7Bおよび通帳類収納ケース1に、レンズ基台7Bを折り畳んだ状態で保持するための保持手段9A、9Bを付加することが望ましい。

【0025】この保持手段9A、9Bは、通帳類収納ケースを所持または保管する際の便宜を考慮したものである。このようにレンズ基台7Bの自由端側に取り付けられた適宜保持手段9A、9Bは、例えば、雌雄のスナッ

プ、スナッフフィットや圧接形スナッフ（マジックテープ（商標））を採用することができる。また図5（A）に示すように、レンズ基台7Bを通帳類収納ケース1に矢印のように差し込む差し込み形の保持部材11A、11Bを配設することもできる。

【0026】図5（B）は、通帳類ケースが1A、1Bの二つ折りに形成され、ケース部分1Bにレンズ7の基台が接着されている態様を示すものである。レンズ7の基台は両頭矢印13のように折り畳まれ、ついで両頭矢印14のように折り畳まれるように構成される。この場合の保持手段は、12A、12Bの位置にスナッフフィット、圧接形スナッフ等を取り付けることにより目的を達成することができる。

【0027】図6（A）および（B）は、通帳類ケース1にレンズポケット15が取り付けられており、このポケット15内に方形のレンズ自体またはその一部にレンズの取り付けられたレンズ基台7Bが収納されている。この実施例では、方形のレンズ自体またはレンズ基台7Bは、ポケット15の内部に形成されたストッパ16Aおよびレンズ側のストッパ16Bの両者が係合し、両頭矢印のように上方に引き出して使用する際の脱落を防止する構成を採用している。図（B）は、図（A）のB-B矢視図である。

【0028】また図6（C）は、レンズポケット15内に収納されたレンズまたはレンズ基台7Bを支承部17において両頭矢印18のように回動可能に支承したものである。使用にあたってはレンズ基台7Bを外部に引出し、不使用時にはレンズポケット15内に収納するように回動せしめるものである。

【0029】図7は、通帳類収納ケース1に対して、レンズ基台7Bを任意開閉位置で留めて置くことができるように取り付けた実施例を示すものである。レンズ基台7Bを任意開閉位置で留めて置くための機構は、種々の構成が考えられるが、例えば同図（B）に示すように、小形ラチェットRとレンズ基台7Bとの係合または摩擦等を利用することができる。その結果、通帳類Nの利用頁を開いて、一部をケース内に差し込んで置き、他側の利用頁をレンズ7から所定距離となるように位置付けることができ、例えば他書類との照合を行いながら伝票類の記述を行う場合等に有利に利用することができる。

【0030】図8は、図4ないし図7に示した各実施例においてレンズ基台7Bを使用する際の変化例を示したものである。図のようにレンズ基台7Bに適宜文字、図案等を付加し、あるいはレンズ基台7Bを任意の形状とすることにより通帳類収納ケース1の装飾性を向上せしめることができる。

【0031】例えば、レンズ基台7Bに鶴亀等のめでたい動物の形状や祝、寿等の文字をかたどり、その一部にレンズを付加することができる。このような構成により、実用以上の、通帳類収納ケースの装飾、並びに同一

機関の他の種類の通帳類との差別化や他機関の通帳類との差別化が図れるばかりでなく、さらに高齢者等が多数の通帳類を的確に識別することができるなど、付加的効果をも期待することができる。

【0032】

【発明の効果】以上説明したように、本発明にかかる通帳類収納ケースによれば、金融機関窓口等に持参する通帳類にレンズを付加しているため、ウっかり忘れるという事態を防止することができる。また、かかる構成をとったことにより極端に通帳類の容積が増えたり、嵩張ることもなく、保管や保持等取扱上も格別不便となることはない。

【0033】この場合のレンズの屈折率は、各実施例に示したいずれかの手段により比較的容易に調節することが可能となる。したがって、視度の異なる利用者やその後視度に変化した場合にも容易に対応することができ、利用度が向上する。

【0034】利用者は、通帳類を取り出し、レンズ部分を利用することにより拡大鏡として利用することができ、さらに他通帳類との識別を容易にする効果が得られ、高齢者や弱視の状態にある利用者に対するサービスの向上を図ることもできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかる通帳類収納ケースの基本構成を示す表面図および裏面図である。

【図2】本発明にかかる通帳類収納ケースの実施例の説明図である。

【図3】本発明にかかる通帳類収納ケースの他の実施例の説明図である。

【図4】本発明にかかる通帳類収納ケースのさらに他の実施例の説明図である。

【図5】本発明にかかる通帳類収納ケースのさらに他の実施例の説明図である。

【図6】本発明にかかる通帳類収納ケースのさらに他の実施例の説明図である。

【図7】本発明にかかる通帳類収納ケースのさらに他の実施例の説明図である。

【図8】本発明にかかる通帳類収納ケースのレンズ基台の実施例の説明図である。

【符号の説明】

- | | |
|--|----------|
| 1 | 通帳類収納ケース |
| 2 | レンズ |
| 3 | 開口部（開口窓） |
| 4 | 透明ポケット |
| 5、6、7 | 付加レンズ |
| 6B | 接着剤 |
| 7B | レンズ基台 |
| 8 | 接着部 |
| 9A、9B、11A、11B、12A、12B、16A、16B、保持手段（保持部材） | |

(5)

特開平10-181750

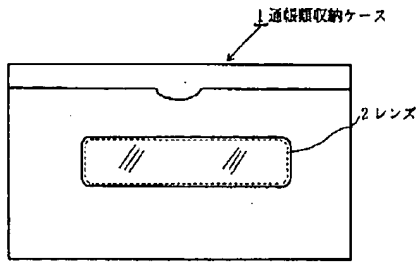
15

7
レンズポケット

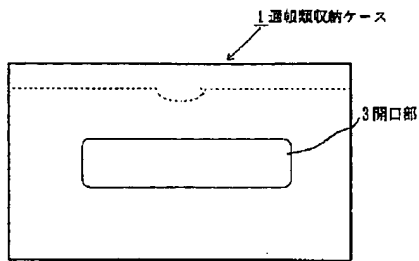
17

8
支承部

【図1】

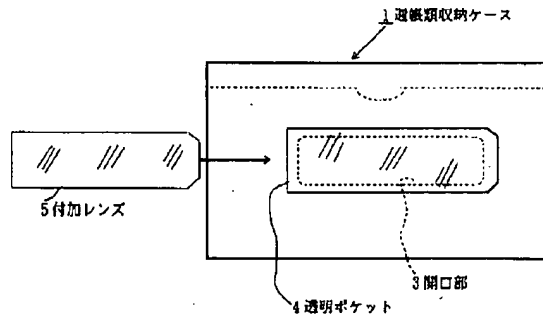


(a)

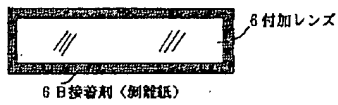
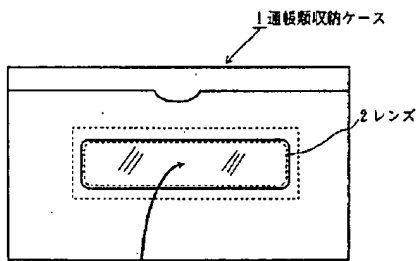


(b)

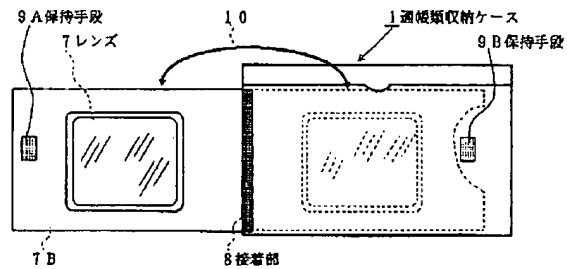
【図2】



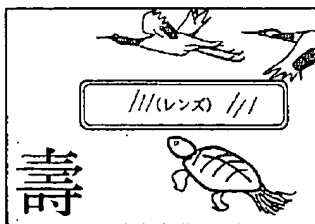
【図3】



【図4】

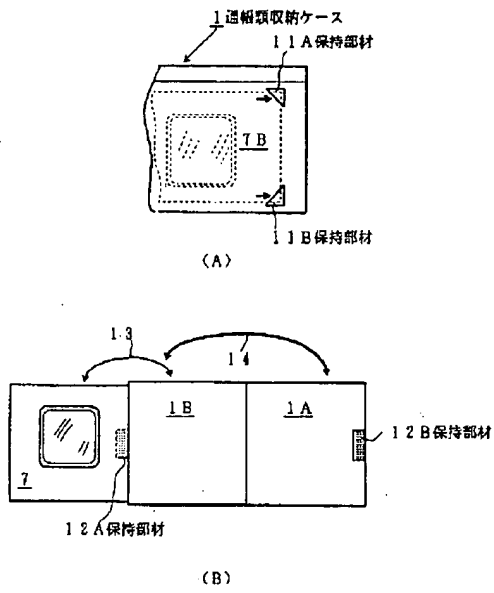


【図8】

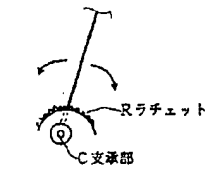
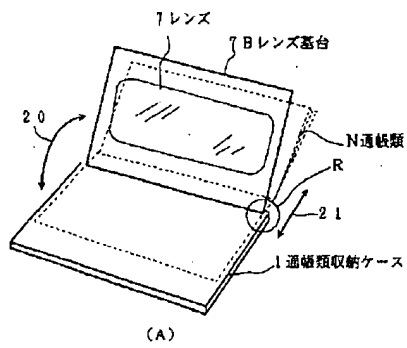


(絵・文字入りレンズ基台の例)

【図5】



【図7】



(B) R部拡大図

【図6】

